

2021.11.28. なぜ神は私たちを訓練されるのか

新約聖書：ヘブル人への手紙 12 章 4～13 節

JD ファラグ牧師

さて、おはようございます。オンラインで参加の方も、ようこそ。日曜の朝の第二礼拝です。日曜の朝は二つの礼拝を行っていますが、第一礼拝は毎週行っている「聖書預言・アップデート」です。そして、第二礼拝は説教です。聖書の一節ごとの学びで、現在、ヘブル人への手紙に入っています。今日の箇所は 12 章 4 節から 13 節です。さて、先日掲載したサムネイルでは、12 章 4 節から 12 節となっておりますが、4 節から 12 節ではありません。4 節から 13 節です。どこかの間抜け者が間違えたのですが… (JD 挙手) その間抜け者の責任は私に取ります。ここにいらっしゃる方は、お手数ですがご起立くださり、私の朗読に合わせてついてきて下さい。では、4 節から始めます。起立が無理な方は、座ったままで結構です。ヘブル人への手紙の著者は続けて、聖霊によって、書いています。4 節。

ヘブル 12

4 あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことはありません。

5 そして、あなたがたに向かって子どもたちに対するように語られた、この励ましのことばを忘れていません。「わが子よ、主の訓練を軽んじてはならない。主に叱られて気落ちしてはならない。

6 主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられるのだから。」

7 訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が訓練しない子がいるのでしょうか。

8 もしあなたがたが、すべての子が受けている訓練を受けていないとしたら、私生児であって、本当の子ではありません。

9 さらに、私たちには肉の父がいて、私たちが訓練しましたが、私たちはその父たちを尊敬していました。それなら、なおのこと、私たちは霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。

10 肉の父はわずかの間、自分が良いと思うことにしたがって私たちが訓練しましたが、霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。

11 すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。

12 ですから、弱った手と衰えた膝をまっすぐにしなさい。

13 また、あなたがたは自分の足のために、まっすぐな道を作りなさい。足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろ癒やされるためです。

お祈りしましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。

天におられます愛する父よ、私たちは、今日、与えられた御言葉を前に、あなたにとっても感謝しています。厳しいみことばですが、素晴らしい神のみことばです。私たちには耳に痛いものかもしれませんが、私たちは聞く必要があります。そして、聖霊によって、なぜ聖書にこのような節があるのか、あなたの御旨を明し、示していただきたいのです。それには理由があります。すべてのみことばには神の息が吹き込まれ、指導や励まし、必要な時には叱責のために与えられていますが、今回はそのようなものの一つです。ですから、主よ、私たちが快く、喜んでそれを受け取れますように、祈ります。そして、主よ、私たちをお導きください、イエスの名によってお祈りします。アーメン、アーメン。御着席ください。ありがとうございます。今読んだ文が、すべてを物語っていますよね。このまま祈って、終えてもいいでしょうか？

ダメですよ。さて、今日は、私たちのクリスチャン生活の中で、神が私たちに訓練し、懲らしめを与える必要があると判断された時について、皆さんとお話ししたいと思います。具体的には、なぜ神は、「霊的お仕置き」と呼ばれるものをしばしば与えられるのでしょうか。そしてさらに、私たちの人生における訓練、霊的お仕置きが、私たちの人生に何をもたらすのかについても話したいと思います。以下は、なぜ神が私たちに訓練されるのかに関する、三つの理由です。その理由は、すぐにお分かりになると思いますが、しかし、これら3つの理由はすべて、誤解しないように、良く理解しておくべきです。それが問題で、私はそれに対処したいのです。まずは、この最初の4~6節から見てみましょう。

神が私たちに訓練されるのは、「神は私たちが愛しておられるから」です。親として子どもを躾ける前に、「愛しているから躾けるんだよ」と言ったことがある人はどれくらいいるのでしょうか？ そして、どれだけの子どもたちが、「愛してくれなくてもいいわ」と、というような反応をしたことでしょうか。これはどうでしょうか。「これは、あなたが傷つくよりも、私が非常に傷つくことになる。」彼らはそれを理解していますよね？ そうすると、彼らはたいてい次のように言います。「ねえ、聞いてよ、僕らはここで多くの傷を負う必要はないよ。あなたがもっと傷つくなら、こんなことしなくてもいいよ...私はあなたに私以上に傷ついてほしくないし。」そうではなく、愛しているからこそ躾ける/訓練するのです。天の父もまた、私たちへの愛のゆえに私たちに訓練してくださるのです。ここで、ヘブル人への手紙の著者は、箴言3章11節~12節を引用しています。そして、彼はこのように、この箇所を読んでいるときにお気づきになったことを願いますが、彼はこれを、思い出させるために言っているのです。それは、単に「ねえ、思い出して」というものではありません。そうではなく、「忘れてしまったのか？」という、少し強い表現です。誰かが「ねえ、覚えている？」と聞いた時に、「何のこと？」と答えるような感じです。しかし、「忘れたのか!？」と聞いている感じです。「いいえ…」もう少し強く、より強く伝えています。それが、ヘブル人への手紙の著者がここで言っていることです。「神が訓練される理由を忘れてしまったのですか？ その理由とは、神があなたを愛しているからです。」そして、当時の彼らのように、今の私たちも、聞いてください、これが私たちの対処しなければならない問題なのです。私たちは皆、神の訓練を誤解する傾向、性向を持っています。私たちが、主がなぜ私たちに訓練するのかを誤解、または誤って理解すると、しばしば恨みが生じてきます。実際、一部の翻訳ではこのように表記されていますね。「主があなたを訓練するとき、それに腹を立ててはならない。」なぜ腹を立てる可能性があるのでしょうか？ 神が私たちに訓練するとき、それに腹を立て、憤慨する可能性があるのは何故なのでしょう？ なぜかというと、私たちはその理由を理解していないからです。神は私を愛しておられるからこそされるのだと、心から理解したとき、実際に、神が私を訓練しなかったとしたら、それは神が気にかけていないことを意味するので、より悪いことです。では、日々の、私たちの家庭生活に持ち込んでみましょう。あなたの子どもには、訓練/躾が必要です。今日は忙しい一日でした。あなたは疲れ、座っています。あなたはすでに食事も終わり、ただ、疲れきっています。何があなたを椅子から立ち上がらせ、子どもを躾けさせるのでしょうか？ 愛ではありませんか？ すごく疲れてるけど、気になって仕方がないのです。私たちの子どもたちが成長する過程で、彼らは躾について、飽き飽きしていました。私たちは彼らに、このようなことを伝えます。「もし私たちが気にかけていないのなら、あなたを躾けることはしない。ただ、『いいよ、どうぞ自由に』と言うよ。『ナイフでジャグリングでもしてなさい、気にしないから』と。」だからこそ、大人になってから今のような問題が出てくるのだと思います。言いたいことはわかりますよね？ 親が気にかけていないのなら、何もしてくれませんよ。親が子どもを躾けるということは、本当に大切にしてい

るということなのです。立ち上がるほど心配している。彼らは死ぬほど疲れているのに、そのことに対処している。なぜか？ それは、あなたを本当に愛しているのだから、そのまま放置できないからです。さて、これを家庭内から、みことばの文脈に移してみましょう。私たちの天の父は、どれほどにそうなのでしょう。神は私たちを無限に愛しておられます。だからこそ、主が私たちを訓練されるときには、その理由を理解する必要があります。主が私をとて愛しているからこそ、私を訓練されるのです。なぜなら、もし私がそのことを把握せず、受け入れず、理解しないで、かえって誤解してしまうなら、私はそれに、腹を立てることになるからです。そして、こうなるのです。私はこの本の次の章を書くことができます。ところで、あなたもそうですよね。訓練が、主の私たちに対する無限の愛であることを、誤って理解してしまうと、その時、私たちを主から遠ざけてしまうのです。天の父に訓練されたクリスチャンが、天の父から距離を置くことほど、敵を喜ばせるものはありません。これが問題だと言うと、ほとんど、控えめな表現になってしまいます。自分の人生に置き換えて語ってみます。クリスチャンになって間もない頃、私は、天の父からの訓練を、地上の父から受けた驕というレンズを通して見ていました。そして、その二つを切り離し、考えを改めるのに何年もかかりました。地上の父が私を懲らしめたので、私はそれに憤慨し、そのために父から距離を置いたからです。結果的に良い関係は築けませんでした。そして、神の子として、神からの訓練を受ける身になった今、同じことを繰り返してしまう傾向があるのです。「ああ...、神は私に怒っている。今回は本当にマズイ。」地上の父親に対して、私はそう反応していました。朝、父が家を出て行くまで起きないように寝坊し、父が帰宅する前に寝るようにして、彼を避けていました。父は、いつも私に怒っていました。きっと私が、父に怒る理由を与えたのでしょう。私は、驕と怒りとを結びつけてしまいました。それについては、もう少し詳しくお話しします。そうして、神が私を訓練し始めると、私はそれを、神が怒っていると思ってしまうのです。いいえ、神は私に怒っていません。これ以上の真実はありません。逆もまた真実です。神があなたを、訓練しておられるのです。それは、あなたに怒っているからではなく、あなたを愛しておられるからです。私はこれまで、訓練を憤りや怒りと同一視していたので、これを理解するには少し時間がかかりました。「口を酸っぱくして言ったのに、どうしてそんなことができるの？ それらすべて、いやそれ以上のことを言った。何度言ったらわかるの？ もう我慢できないわ！」母はとうとう、これ以上我慢できないほどに達していました「もうあなたには我慢できないわ！」あ、じゃあこれはどうですか？ これはいいですよ。「自分の子どもができれば分かるわ...」母は、ひどい訛りで私にそう言ったものです。「ワヒド〜！」と。母はある特定の音を出すのですが、私には何も理解出来ませんでした。私が聞いたのは「トトトト〜」(高い声)「自分の子どもができれば分かるわ！」はいはい、どうでもいいや、という感じです。そして、自分たちにも子どもができました。ああ、お母さん、ごめんなさい。もちろん、彼女はすでに主のもとに帰っていたので、私にはチャンスがありませんでしたが。いや、いまでもよく思いますよ。あの時、今知っていることを知っていたら。ああ、かわいそうな母、私は何度も泣かせてしまいました。そして、母がどれだけ私を愛していたかも知っていました。父とは違って、母とはもっと良い関係を築いていました。ですから、彼女が私を躰けるときは、優しくかったです。それがどんなものか、分かりますよね？ 一つ、本当のことは、「お父さんが帰って来るのを待っていなさい。」あなたの家でも、そんな感じだったのではないのでしょうか。「お母さんが帰るまで待っていなさい」と言われる方が悪いです。男性方、いいですか。それは男の役割です。しかし、彼女が私を叩くときは、なんだかこう軽く触れるような感じでした。もちろん、私は演技して、「ア〜！」って叫ぶんですが....。「えっ？まだ叩いてないわよ。どうしたの？」でも、彼女にとっては本当につらいこ

とで、やりたくないけど、やらなければならないと思っていることが伝わってきました。それほどまでに私を愛してくれたからです。先に進む前に、最後に一言だけ言わせてください。もしクリスチャンが、これを理解することができれば、クリスチャン人生の中で、多くの問題を解決することができると思います。神が私たちを訓練されるのは、神の愛のゆえだということを真に理解するなら、もし私たちがそれを理解し、乗り越えることができれば、私たちの人生は大きく変わることになるでしょう。主が私たちを訓練されるのは、私たちへの愛のためだけではありません。主は私たちを受け入れてくださるからこそ、私たちを訓練なさるのです。それが7~9節にある2つ目になります。「私たちは主の子どもである」からこそ、主は私たちを訓練されます。当たり前のことですが、これについて考えてみましょう。親として、あなたは他人の子どもを躰けますか？ そりゃあ、たまにはすることもあるでしょう。外で食事をしていて、子どもたちが騒いでいて食べ物を投げつけているのに、親は何もしないということがありますよね。そして、あなたはこう思う。「あの子にはちゃんとお仕置きが必要だな。」もしあなたが立ち上がって、他人の子どもをお仕置きしたらどうなるでしょう？ どうなるでしょうね？ さて、例えは悪いですが、ヘブル人の手紙の著者がここで言っているのはそういうことです。ところで、あなたが天の父から訓練を受けるといふ、その意味が分かりますか？ あなたが、主の子どもであるということです。深い意味があるのはわかるけど、他に方法があればいいのですが、神の子という看板が欲しいですね。「お仕置きは必要ありません。私は神の子です。」ほら、ここに看板がある。駄目です。どうして私が神の子だとわかるのですか？ 神が私を訓練するから、ですよ。神が私を訓練されるのは、私をご自分の子どもとして受け入れておられるからです。だからこそ、ヘブル人の手紙の著者は、地上の父親に訓練された場合と、天の父に訓練された場合を比較して描いているのだと思います。そしてここでもまた、気まずい話題に対処しなければなりません。最大の問題は、私たちが子どもの頃、怒りに任せて躰けられることに慣れきっていたことです。誰もが経験したことですよね。私の子育ての中にもありました。ついでに告白すると、以前にもシェアしたことがあります。私はただ、包み隠すことなく言います。私は、会社を立ち上げて経営したり、教会を建てたり、牧師をしたりしてきました。でも、それらを合わせても、子育ての困難さには比べられません。一番大変な仕事です。私は、牧師、経営者、雇用者を経験しましたが、全部合わせても、親になるほど大変なことはありません。大変な仕事です。軟弱な者には無理です。そして問題は、怒りから訓練を切り離すこと、放棄することです。神が怒っておられるのではなく、これはあなたを受け入れている証拠です。あなたを愛して、受け入れている証拠です。そして、ああ、ところで、これはあなたが、神に属しているという証拠でもあります。なぜなら、もし主があなたを訓練しなかったら、どうなると思いますか？ あなたは私生児になります。本当の子ではありません。今の時代、それはあなたに打撃となりません。しかし、少し前まではこんな時代があり、父親が誰か分からない私生児となることは、だから私生児と呼ばれるのですが、惨めで貧困の人生を送る者とみなされました。あなたは仲間はずれで、決して受け入れられませんでした。私生児として拒絶されました。その子の人生に大きな影響を与えました。ですから、あまり焦って読み進めたり、「本当の子」という言葉を読み飛ばさないでください。私は天の父に属しているので、本当の子です。神は、私を子どもとして受け入れてくださっています。私は神に属しています。私は神の子です。もう一度やってみましょう。ところで、それは良いプライドですからね。これをやってみましょう。「私の父が誰だか知っているか？」ええ。「私の父が誰だか知ってるか？」「いいえ、あなたのお父さんは誰ですか？」「まあ、私の父は〇〇だよ。」「ああ、そうですか、大したことないね。私の父は神だよ。」どうだ！「まさか！」「そうだよ！」「そんなまさか！」「まさかだよ！」

「私の父は、天と地と海とそこにあるすべてのものの創造主なのだ。そしてさらに、『パパと呼んでもいいよ』と言ってくださったんだ。」待ってください。ちょっと待ってください。これは重要なことです。もう一度、個人的に、率直に皆さんに伝えたいことがあります。私の祈りの生活が、想像もしなかった方法で変えられたことです。そして、私は決して後ろを振り返ることはありませんでした。もっと早く決断しておけばよかったというのが唯一の後悔であるとき、私はいつも良い決断をしたのだと思います。数年前、私は祈ることをやめ私自身の祈りの生活について話しています。「天にいます我らの父よ...」私は、イエスが弟子たちに祈りを教えてほしいと頼まれて、教えられた箇所、失礼にならないようにしています。しかし、それはあまりにも形式的でした。あまりにも離れすぎていました。あまりにも遠い存在でした。それはあまりにも.....。「オーオーオ〜♪」そして、主は私に「待ちなさい、わたしのことを『パパ』と呼んでもいいんだよ。」と言ってくださったのです。これはアラビア語です。ヘブライ語では『アバ』です。本土にいたときに、イスラエルでツアーガイドをしている人が、我が家に泊まってくれたんです。そして、教会の平日の集会で彼に話してもらいました。私たちが帰ろうとしたとき、彼の子どもたちが彼に、「バイバイ、アバ」と言いました。それから、当時幼かった私の二人の息子は、私が教会に出かけるたび、「バイバイ、ババ」と言うようになりました。そして私はピンときたのです。ババ、アバとは何か分かりますか？「アバ」は、お父さん、パパ、ダディーです。何人かの人は、「ちょっと待って。」という感じですね。「私たちが話しているのは、神様のことですよ。」それが問題なんですよね。もし、あなたがただ話しかけるなら、どれほど変わるでしょうか。ところで、祈りとはそういうことなのです。祈りとは、ただお父ちゃんに話しかけることなんです。さて、正直に言うと、私は最初「父ちゃん...？」と言うと「やばい、雷が落ちる。」という感じでした。「主への敬虔な畏れはどこだ?!」一笑ーいや、神は、父ちゃんと呼びなさいと言われました。わたしを父ちゃんと呼びなさいと。少し時間はかかりましたが、間もなく、主と話すたびに、「ババ、ありがとうババ。」と言うようになりました。「ありがとう、ババ。」そして、そこには親密さがあります。とてもパワフルな関係性があります。なぜなら、“神”から“父ちゃん”へと移行することができるからです。考えてみてください。お父さんとお母さんは、どれだけ自分の子どもを愛していますか？あなたは子どものために何をしますか？自分の子どものためにしないことはないでしょう。「あなたは、最も悲しんでいる子どもと同じくらいしか、幸せになれない。」と言われていますが、それは本当です。私たちの天の父は、どれほどのものなのでしょうか？自分の子どもをどれだけ愛しているか考えてみてください。子どもが、あなたのところに来て、父親であるあなたに何かを頼みます。あなたは彼らに、どう言いますか？魚が欲しいと言われたのに、子どもに蛇を与えますか？もしそうなら、後で私の所に来てください。あなたに按手する必要があります。あなたが思うような方法ではありませんが（笑）

それが、イエスが仰ったことです。（ルカ 11:11 参照）

あなた方の地上の父親はそしてあなたは、自分の子どもにどのように良い贈り物を与えるかを知っています。それならなおのこと、あなたの天の父は、求める者に、どれほど御霊を与えてくださることでしょうか。ヤコブは、救い主イエスの処女降誕後に、ヨセフとマリアの間に生まれた異父兄弟です。とても単刀直入です。人間となった神が自分の兄である家で育つなんてこと、想像できますか？すべて、イエスと比べられます。「なぜあなたは、兄のイエスのように部屋をきれいにできないの？」「僕は神じゃない。」だから、ヤコブがなぜあんなに単刀直入なのか、なんとなくわかるでしょう。彼は基本的にこのように言っています。「あなたのものにならないのは、あなたが求めないからです。」（ヤコブ 4:2 参照）

ではごきげんよう、それは、あなた自身の問題なのです。欲しいものが手に入らないのは、あなたが求めないからです。私たちには何かあるのか？ 私たちが関連付けることができないのは、私たちのには罪の性質、アダムの性質があるからでしょうか？ 私たちには、天の父がいます。私たちをととても愛してくださっています。そのひとり子を送ってくださいました。私はそんなことはできません。つまり、あなたを愛してはいますが、そこまでは愛していません。あなたのために、私の唯一の息子の命を与えるつもりはありません。

「人のために命を捨てるほどの、大きな愛はありません。」(ヨハネ 15:13 参照)

しかし、神はそれほど私たちを愛しておられ、神はひとり子を、私たちの代わりに、私たちのために死なせるために、与えてくださいました。それは、信じる者が永遠に地獄で滅びるのではなく、そう、地獄は永遠に続くのですが、しかし、天で主と共に、永遠のいのちを得るためです。(ヨハネ 3:16 参照)

それが愛です。これ以上の愛はありません。それが愛なのです。そして、神は私たちを受け入れてくださり、今では、私たちは神の子どもです。もう一度言いますが、たぶん同じことを、違う言い方で言います。私たちは皆、よくやってしまうでしょう。私自身もこれに含まれます。何年も主とともに歩んできた今でも、私の日々の戦いです。誤解しないように理解しなければなりません。ええ、私はまた別の霊的なお仕置きを受けています。そしてそれは良いことです。それは良いことです。なんと言っても、私は神の子どもであり、神は私の父ということですから。それは良いことです。私が心配すべきときは、主が私を訓練されるのを止めたときです。その時は心配すべきです。その時、あなたは心配すべきです。主はそうはされないでしょうが、要点はわかっていただけだと思います。

さて、残りの時間を、最後の 10-13 節に費やしたいと思います。これまでに何度も聞いたことがありますよね？「あなたのためになるのよ。」母がいつもそう言っていました。「あなたの益のため」本当に？これは良くないです。そして、ヘブル人への手紙の著者は少なくとも正直に、聖霊によって語っているのではないのでしょうか？ 霊的なお仕置きを受けているとき、誰もが「やった！もっとお仕置きを！」とは思いません。そうではなく、「いやだ、こんなの嫌だ！」と思うのです。「この部分が大好きなんだ。」「それは不快です。」不快なことを表現するには快適な言葉ですね。他にも言葉がありますが、使いません。しかし、少なくとも、また、著者は正直に言っています。それは苦痛でさえあると。それは真実です。しかし、それに耐えるのです。なぜか？なぜなら、そこから良いものが生まれるからです。お聞きください。繰り返しになりますが、これも当たり前のことだと分かっていますが、訓練は私たち自身の益のためにありますが、訓練が私たちの人生に生み出すのは…つまり私たちが嫌がり、不快であり、苦痛でさえあるこの訓練は、私たちが切実に求め、必要とする良いものを生み出すのです。欲しいものと必要なものの両方です。私はこれを経験しましたので、リストにまとめてみました。そのリストを皆さんと共有したいと思います。訓練から生まれるすべての良いことを。さて、あなたはもっと追加したいものがあるかもしれませんが、ここでは私のリストを紹介します。これは、訓練が生み出す良いもののリストです。もしあなたが耐えれば、訓練に耐えるなら、ええ、苦しいのはわかります。ええ、不快なのはわかっています。しかし、そこから得られる良いことのために耐えているのです。おー、何が良いのですか？ ええ、尋ねてくれて嬉しいです準備はいいですか？ どれもこれも欲しくて、必要なものばかりです。“神性さ” “完全さ” 中途半端ではなく、“満ちていること” “純粋さと聖さ” ええ、私は聖になりたいです。まあ、訓練から生まれる良いことは、そこに聖さがあるということです。聖なる薬はないんですか？ ありません。あの広告をずっと見えています。たくさんありますからね。聖くなる薬はありません。訓練が聖さを

生み出します。主は聖なるお方ですから、私も聖なる者になりたいのです。ええ、それは訓練から来る良いことです。”義” 私たち自身の義ではなく、キリストにある義です。私は正しいことをしたい。正しさの中を歩みたいです。純粹さの中を歩み、神聖さの中を歩みたいです。ここから私のリストの次のもので、これは重要です。どれも重要ですが、しかし、これは大きな大きなものです。”平安” ああ、私にもそれが必要です。平安。私たちは何度言ったことでしょうか。「ああ、平安をただ求めているのです。」と。よし、では、訓練がやってきます。なぜなら、訓練が平安を生み出すからです。パウロはそれをこう説明しています。

「人の理解を超えた神の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

(ピリピ 4:7 参照)

超自然的な平安です。イエスは仰いました。

「わたしが与える平安は、この世が与えるものとは違います。」(ヨハネ 14:27 参照)

「わたしがあなたに与える平安は、わたしにしか与えられない超自然的な平安です。」ええ、では、私にもそれをいただけませんか？「よろしい。」ここから訓練がやってきます。なぜなら、訓練がそれを生み出すからです。それは良いことです。私のリストの次のものはこれです。

”強さ” 私たちが祈るときに、「神よ、私には強さが必要です」と何度と言ったことでしょうか。強さが必要ですか？ OK、ここです。訓練が強さを生みます。これはいつも話していることです。「主よ、私には忍耐力と辛抱強さが必要です。」主はこう仰られます。「忍耐力と辛抱強さを与える唯一の方法は、試練を経験することです。なぜなら、そこから忍耐力と辛抱強さが得られるからです。」待ってください、私が理解しているかどうか確認させてください。だから、私に忍耐力が必要な場合、忍耐力を得るには忍耐するしかないということですか？ そうです。なぜなら、試練はあなたにその忍耐を生み出すからです。だからこそ、ヤコブは言うのです。ここでもヤコブを愛さなければなりません。

「私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。」(ヤコブ 1:2)

そして、ありがたいことに、そのまま放置しているわけではありません。想像してみてください。彼が言うには、「神があなたの人生に許されたその試練によって、神がしようとされていることを知っている」と。神の働きです。「ええ、でもこれは難しいです。」ええ、でも神があなたの中で何を生み出しておられるか知っていますか？ 主は、まさにあなたが求めていたものを、あなたの中で生み出しておられるのです。忍耐です。「私には忍耐が必要です。」OK。ここで試練が始まります。試練が忍耐を生み出すことになるからです。試練が忍耐力を生むことになります。「主よ、私にはこの状況を乗り切る力が必要です。」

「よし、これを乗り切れれば、力がつくはずですよ。」そういうものなのです。なぜ、そんな目で見えるのですか？ これは私たちが言われていることです。これは神の御言葉が仰っていることです。訓練に耐えたいですか？「私には耐える力が必要です。」—「そうか、それならば、あなたは訓練される必要がある。なぜなら、訓練されることで、耐える力を得ることができるから。」別の方法があればいいのですが、ありません。ヤコブがこのように言っています。「あなたがたが成熟し、何一つ欠けたところのない者となるためです。」あなたは、その試練の中で、試練を通して、必要なものをすべて手に入れるのです。ですから、あなたは何も欠けたところのない者となります。そうなるでしょう。私のリストにはないけれど、あなたのリストにはあるかもしれませんね。ところで、これはまた別のものです。訓練は”成熟”を生み出します。そうですね、私がただ言いたいのは、誰も気分を害さないように、自分自身を使います。しかし、主との歩みの中で、主が私に「あなたは成長しなければならない」と仰っているような時期がありました。

た。「あなたには成熟が必要です。成長しなければなりません。」わかりますか？ 25歳の子にお尻を叩いたりしないですよ。そうしないことを願っています。そうですよね？ どうしてか？ 成熟しているからです。さて、霊的な意味でも同じことが言えます。訓練されることによって、成熟していくのです。ああ、子どもが成長するにつれ、躰/訓練は変化していき、年齢に応じたものになっていきます、しかし、それでも訓練は私たちの生活の中でそれを生み出します。

さて、次に進みましょう。もしよろしければ、私のリストにはまだいくつかの項目があります。

”方向性”はどうですか？ 「自分の足のために、まっすぐな道を作りなさい。」（ヘブル12:13参照）

時には、これは次のリストにある”矯正”と関連していますが、これは”方向転換”と同義かもしれません。私はこの道に足を踏み入れたのですが、主は「いや、そうしてはいけない」と仰います。だから、主が介入され、主は私を正されなければなりません。それが矯正というものです。ところで、躰/訓練(discipline)という言葉は、弟子(disciple)という語源からきているのですよね？ 弟子、訓練 つまり、この恐ろしい言葉である「訓練/躰」に関して私たちがどれだけ理解を深めてきたかを物語っているのではないのでしょうか。「いやだ〜！」違います、それは良いことです。それは良いことです。ですから、神は私たちをととても愛しておられるので、私たちを方向転換させるために、今、介入して私たちを正さなければなりません。私たちがその道を進み続けるなら、それが破滅につながる道であることを知っておられるからです。そして、神は私たちをととても愛しておられるので、その方向に向かって無駄に苦しむことを望んでおられません。神があなたの歩みを指示されると言われています。しかし、それだけではなく、神はあなたの停止をも指示されます。時に、神はあなたの足を止めて、それまであなたの注意を引いていなかった何かに、注意を引かせることがあります。指さないように気をつけます。自分を例に挙げて説明します。確かに傷跡は残っています。神が私の注意を引くために何かを起こさせたことが何度あったでしょうか？ なんかもう、「おお、神よ〜！」って感じです。「ああ、これであなたの気を引くことができましたね。」「はい、主よ、お話してください、あなたのしもべは聞いています。」「さて、昨日、あなたはわたしのために時間を割きませんでしたね。あなたはわたしに時間を割いてくれません。そのため、わたしはこのような状況を許す必要があり、わたしが介入して、その場でちょっとした霊的なお仕置きをする必要がありました。今、わたしはあなたの注意を引きました。」—「わかりました、主よ...!」「そっちに行つてはなりません、方向転換しなさい。それは間違った道なので、私はあなたを正します。あなたに正しい道を歩ませてあげたいのです。」私たちはここで矯正が必要なのです。

「人には正しいと思われる道があるが、それは死に至る道である」という箴言があります。

（箴言14:12参照）

この表現を聞いたことがありますか？ 大事なことなので、ちょっとだけ時間をかけてみます。この表現を聞いたことがあるでしょう。「こんなに気持ちのいいものが、どうして間違いうるのか？」簡単ですよ。つまり、実際に広告でも活用されていて、非常に効果的ですよ。この広告キャンペーンとはこのようなものです。「どうやって5万人もの人が間違えるのですか？」簡単です。

なぜなら、広い門は滅びに至る門であり、多くの人が行きますが、狭い門は命に至る道であり、わずかな人しか行きません。（マタイ7:13,14参照）

ですから、「正しいと覚えることが、どうして間違いうるのか？」という質問にたいしては、なぜなら、繰り返しになりますが、自分にとって正しいと覚える道があっても、それは間違っていることがあるからです。そして、主があなたを矯正し、方向転換しない限り、あなたがそこに留まるならば、それはあな

たの危険になるでしょう。では、最後は、私のリストの中で最も重要なものです。そして、これが13節がここにある理由です。

”癒し” 何? 「この件については、牧師さんに説明していただきたいですね。」そうします。さて、ヘブル人の手紙の著者は、聖霊によって書いています。では、これを見てください。神が私たちに訓練される時、訓練が解かれた後にもたらされる終結があります。そして、そう、苦しいのです。というのは、神が私たちに訓練される時、私たちの意志を砕かれるからです。骨折したときには、骨折した箇所の方がより強く治るという話は、皆さんも間違いなく聞いたことがあると思います。それは生理的なものです。さらに、霊的にもそうです。いいですか、神は私たちの強い意志を壊さなければならないのです。主はその頑固さ、頑迷さを打ち砕かなければなりません。皆さんにはそんなものは何もないと分かっていますよ。それは「砕かれること」と呼ばれるもので、訓練や懲らしめ、矯正や叱責によってもたらされます。主は私たちに砕かれます。誤解してはいけません。憤慨してはいけません。つまり、壊れたものに関しては、壊れたものに価値はなく、それを捨て、買い換えるというのが本当のところではないでしょうか。神の摂理においてはそうではありません。祝福の前には必ず砕かれることが待っています。私は、主と格闘したヤコブのことを思い出します。それだけでも、私には信じられないことです。強い意志を感じます。というか、名前が性質ですよ、ヤコブ、それはつまり、奪い取る者、強い意志ということです。強さの話をするとなあなたは自分が誰であるかを知っていますね。繰り返しになりますが、指さしはしません。つまり、強い意志を持っているということです。それはヤコブでした。ヤコブは何を求めたのですか? 彼は神に「祝福してください」と頼んでいます。実際は、「私を祝福してくれるまで、あなたを離しません。」そして主は、「ああ、あなたは自分が何を求めているかを知らない。あなたを砕かない限りあなたを祝福することはできない」とおっしゃいました。

そして、意志の格闘があり、それは一晩中続いたと言われています。(創世記 32:24~26 参照)

考えるだけで疲れます。眠るどころか、主ご自身と格闘しているのです。誰が勝ったと思いますか? 言わずもがな、ネタバレになりますよね? 誰が勝つかではなく、主がどのように勝つかが重要なのです。主が「わかった」と仰った時点で、主がヤコブの腰に触れて打つのです。そして彼を砕きます。そして、「今、わたしはあなたを祝福することができます。」祝福の前には必ず、砕かれることが待っています。ギデオンのことを思い出します。感謝祭の日に長男とこの話をしていたところです。300人のギデオン軍の記録で、彼らが望んだとしても、絶対にその功績を自分達のものとする事は出来ません。そこで私は、彼らがどのようにして勝利を勝ち取ったのかを説明していました。彼は、「おお、彼らは戦う必要さえなかったんだ」と言いました。私は「そうだよ」と言いました。しかし、息子は、彼らが壺を壊したときに、ミディアン人の軍隊が逃げたり、同士討ちをしたりして、敗北してしまう理由を知りたかったのです。(士師記 7:20-22 参照) 私は彼に、当時の戦争では、壺の中の光が掲げられているのを見たら、それは1000人の兵士を表しているのだと説明しました。

それらを300個を持っていれば、計算してみると30万人です。(士師記 7:16 参照)

ミディアン人達は、「ああ、ダメだ...」そして、壺を壊し、壊した後に勝利を得ることができました。あなたの人生の中で、ある分野での勝利を望んでいることがあるかもしれません。勝利の前に砕かれることがあります。奇跡はどうですか? 福音書に行きましょう。イエスは大勢の人々を養っておられます。ある記録では、4000人の男性がいたと言っていますが、女性や子どもは含まれていません。聖書の解説者の中には、おそらく2万人の人々が集まったのではないかとされています。そして、これは本当

に起こったことです。聖書を読むときは、いつも自分をその場に置くようにしています。私がある場にいたら、どうしたでしょう？ そして、イエスは、「さあ、人々は本当にお腹をすかしているの、行って食べさせてあげなさい」と仰いました。弟子たちはこんな感じです。「…何を？」「さて、あなたは何を持っていますか？ さあ、調べてみましょう。」そして、弟子たちは戻ってきてあのお母さんはあの男の子のためにお弁当を作ったのです。神がその魚とパンを奇跡的に何千倍にもしてくださり、残り物が出るほどにしてくださるとは思いもしませんでした。そして、興味深いですよね。もし私がそこにいたら、「主よ、どういうことですか？ 私たちは残り物を集める必要はありません。なぜなら、主が明日も同じことをされるから。」主は、「いいえ、残り物を集めなさい」と仰られました。それには教訓がありました。

さて、私の言いたいことからあまり離れたくないので、本題に入ります。主は、その日の朝、お母さんが詰めてくれたあの子のお弁当から、そのパンを取られます。そして、主は何をされるのか？ 主はそれを裂き、祝福し、そしてそれが増やされ、約 2000 年近く経った今、私たちが読み、知っている奇跡となったのです。祝福はいつも砕かれた後にやってきます。最後にそれを反転させて、このように整理してみたいと思います。もしかしたら、あなたの人生には祝福があり、奇跡があり、少なくとも勝利が待っているかもしれません。しかし、これまでの人生では砕かれることなかったもので、勝利を手にするのができないのです。だからこそ、祝福を受けられないのです。だからこそ、奇跡が起きないのです。私は何を言っているのでしょうか？ 私が言いたいのは、「神にあなたを砕いてもらいなさい」ということです。それは元気づけられますよね？ ただ、主の訓練の中で、主の矯正の中で、あなたの意志を砕いてもらってください。早ければ早いほどいいです。ヤコブになるのはやめてください。あなたは自分自身のためにそれを悪化させていますし、必要以上に時間がかかっています。試練の中で、私は何度も蹴ったり、戦ったり、嘔んだり、引っ掻いたり、叫んだりしました。「神よ、なぜですか？」私が、主が砕かれていることに委ねていたら...、もっと早くその試練の終わりを迎えていたかもしれません。私は不必要にそうすると、さらに腹が立ってきますよね。こう気づいたとき、「つまり、一生懸命戦わなければ、もっと早くあの試練を乗り越えられたのではないか？」それはこう呼ばれています。いいですか？ 「降参する」あなたは自分を生きたささげ物として差し出します。ローマ人への手紙 12 章です。生きたささげ物というのがどれほど難しいか知っていますか？ 死んだささげ物は、死んでいるからこそ、とても楽なのです。はいどうぞと。生きたささげ物です。その生きたささげ物を祭壇に並べるのを楽しんでください。まあ、気をつけてほしいのは、あなたはささげ物として祭壇に上がるわけですから、そのためには自分の意志を捨てる必要がありますということです。自分の体を神に受け入れられる聖なる生きたささげ物として捧げましょう。昔の賛美歌、最後にこれで締めくくります。それは私の...どれも好きなので、好きな賛美歌とは言いたくないのですが、特にこの曲が好きです。実際、私の母の話をする、多くの懐かしい思い出を思い出させてくれます。賛美歌 272 番でした。私がピンボールで遊ぶために、母が自分のカフェのレジから小銭を出してくれました。今から思えば、彼女は私にお金を払って、その賛美歌をピアノで弾けるようにしてくれました。そして、その賛美歌は、皆さんもご存知の「Have Thine Own Way」です。

♪主よ、あなたの道を教えてください♪あなたの道を教えてください♪あなたは陶器師であり、私は粘土です私を形づくり、あなたの御心に沿って、私を屈服させ、静めさせてください♪

神の御心は、あなたをイエス・キリストの姿にすることだと知っていますか？ では、陶器師は粘土をどうするのでしょうか？ やれやれ、壊しまくりですよね。壊して、打って、回して、熱して、手を突っ込んで、形を整えて作っていきます。それは辛いですが、私は粘土で、主は陶器師です。あなたは想像できま

すか？ 実際、旧約聖書の預言者たちにも見られます。粘土が陶器師に「なぜ私にこんなことをするのですか？」と質問する姿を想像してみてください。そんなバカな。しかし、私たちはそれをします。陶器師の仕事をさらに難しくしてしまいます。なぜなら、私たちは主の作品だからです。私たちは主の芸術作品なのです。原語であるギリシャ語の新約聖書では、「ポイエーマ(poiema)」という言葉があり、これが英語の「ポエム(poem)」の語源となっています。私たちは主の作品です。私たちは主の芸術作品です。私たちは現在進行中ですよ？ 芸術家は作品を完成させたときに何をしますのでしょうか？そして、忠実であられ、働きを始められた主は、それを完成させ、完璧なものにするために何をしますのでしょうか？完成したとき、主は、ご自分の御名を入れてくださるのです。待ちきれません。私は新しい名前が欲しいです。待ちきれません。私たちは天国で新しい名前をもらうことになります。ヨハネの黙示録に書かれています。それだけでも、私にとってはそれだけでも。しかし、主は所有者の御名を入れます。主は芸術家です。主は陶芸家です。そしてここで、粘土である私が、質問をしている？

「ねえ陶器師さん、私はあの形は特に好きじゃないし、あなたが選んだ色も好きじゃないんだよね。これは私の色ではありません。私は初老なので、これは私の色ではありません。」そうして、陶器師に疑問を投げかけている。本当ですか？...いや、主にあなたを造ってもらいましょう。主にあなたを形作ってもらいましょう。主に砕いてもらいましょう。ただ身を委ねてください。「分かりました、主よ、私はここにいます。あなたのお好きなように、なさってください。私はあなたに完全に身を委ねます。主の御心が何であれ、私はもうあなたと戦うつもりはありません。」私たちの中には自分の個性を強く持っている人がいますが、その場合は時間がかかります。より大変な仕事です。お立ちください、賛美チームに登場してもらいます。今日、私たち全員が何かを得られることを祈ります。これは良いことです。腹を立ててはいけません。軽蔑してはいけません。戦わないでください。神があなたの人生にされている働きをさせてください。辛くても、耐えてください。お約束します。その先には良いものが生まれることを。よし、これで最後の最後です。今、思いつきました。これは聖霊です。試練・訓練・砕かれることの後に、あなたは「おい、ノンクリスチャンはどう対処すんだ？」と何度言いましたか？ああ、興味深いです。彼らは対処しません。辛い試練を乗り越えたとき、つまり、その試練があまりにも辛かったとき、あなたはこう思うでしょう。「ああ、主がいなかったら、どうやって乗り切っていたのか分からなかったよ。」天国の御使いたちが、「彼はようやく理解し始めたようだ」と言っている姿が目につきました。(笑)そこがポイントです。あなたの中に神が生み出してくださるもののゆえに、神の思いのままにしてください。天のお父さん、パパ。本当に感謝します。主よ、著者を促し、これを書かせ、さらに2000年後の私たちが、これによって豊かに祝福され、教えられたことに感謝します。しかしたら、ある人は、これによって正されたかもしれません。矯正が必要です、主よ。主よ、あなたの訓練に感謝します。あなたの愛に感謝します。それほどまでに、私たちが愛してくださっていることに感謝します。イエスの御名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7